

(朝鮮總督府蔵版)

《目 次》

図書館～キャンパスのワンダーランド～への誘い……………	図書館長 岩 間 徹……………	2
統計で見る10年間の図書館事情……………	図書館事務次長……………	3
学生から見た図書館（座談会）……………		4～5
利用者教育を終わって……………	情報サービス課係長 古 庄 敬 文……………	6
新着図書・視聴覚資料紹介・お知らせ……………		7～8



図書館～キャンパスのワンダーランド～への誘い

図書館長 岩間 徹

大学図書館は、学生や教職員のニーズに応えるために、専門性の高い図書や学術雑誌などの印刷媒体のみならず、ビデオテープ、マイクロフィルムなどの視聴覚資料、インターネットやCD-ROMなどの電子メディア等非印刷媒体を利用に付しています。昨今、全国的に後者に対するニーズが高まり、本学としても適宜導入に努めています。

図書館は、いわばキャンパスにおけるワンダーランド(wonderland)です。胸がわくわくする未知の世界がたっぷりつまっている「不思議の国」「すばらしいところ」です。そこは、世界の知恵・知識の宝庫であり、最大の情報源であります。そこへいけば、古今東西、様々なすばらしい人やその作品や思想にふれることができます。

それでは、そのようなワンダーランドへ行って楽しむためには、どうしたらよいのでしょうか。以下では、次の2通りの方法について説明してみたいと思います。まず第一の方法は、散策型とでもいいですか、これといった目的もなしに、とにかく図書館に足を踏み入れてみることです。本学の図書館には、合計約67万冊の図書(和書約41万冊、洋書約26万冊)、雑誌約6,200種類(和雑誌約4,200種類、洋雑誌約2,000種類)、視聴覚資料約13,000点が揃っています。しかも、本学は、他大学に比べて、かなり多くの図書等を開架にしていますので(開架率約32%)、利用者は直接自分で書架まで行って自分の探しているものを自分の手にとって見る事ができるのです。ですから、ヒマな時間を利用して(あるいはヒマつぶしにでも)図書館へいらして下さい。書架巡りをして、おもしろそうな本を手にとってみて下さい。思わぬ発見をするかも知れません。自分の人生を変えるような書物に出会うかも知れません。先日、山形県に住む鷹匠の話を聞いていましたところ、彼は慶応大学に在学中、鷹匠に関する本を読んで、この道に入る決心をしたということです。そういうこともあるのです。時間に制約されずに、自分の読みたい本を思う存分読めるというのは、いいですね。心の安らぎを感じます。その意味で、図書館はキャンパスのオアシスです。私も、学生時代、ヒマを見つけては、図書館に行ったものです。誰からも干渉されることなく、全く自由に自分の時間と空間をそこで見つけることができました。好

きな本を手当たり次第に見つけてきて、テーブルの上に積み上げ、しばし自分の世界をつくったものでした。私はあの時間が一番好きでした。

第二の方法は、レポートや論文の作成といった特定の目的をもって図書館を利用することです。図書館は、このような目的をかなえてくれる最適な場所であります。そこをうまく利用すれば、知りたいことはほぼ100%知ることができます。ただし、そのためには、利用者は事前にアクセス方法を知っておく必要があります。どんなにすばらしい施設であっても使い方を知らなくては意味がありません。もし知らなかったら、気兼ねしないで職員に聞きましょう。職員は質のよいサービスを利用者に提供するために働いているのです。いかに効率よく目的の資料を入手するか、その方法を学ぶことも、在学中に身につけておくべきことのひとつです。私も、学生時代、レポートや論文を書く際、図書館の職員を質問攻めにしたものです。かつて東京のある大学に在学中、私の苦手とする職員がいたのですが、質疑応答のやりとりのあとで(やや時間がかかりましたが)相手を良く理解できるようになり、その後は、とてもスムーズに事が運ぶようになりました。また、アメリカのある大学に留学中、国際法のある課題について調べようとして司書のところへ相談に行ったところ、実はその人とはすでに知り合いになっていたということもあって、コンピュータを駆使して、全米の大学から文献を検索し、プリントアウトしてくれました。そのうちから、適当な文献を見つけだし、小論文を書いたのですが、評価はAでした。もちろん、その図書館員に対する感謝の言葉を論文に付記しておきました。良い論文を書くためには、まず図書館の職員と友だちになっておくことが秘訣です。現在、私自身、職業柄、各地の図書館をよく利用しているのですが、そのことを常に肝に銘じています。

本学の図書館は、現在、徐々にではありますが、電子化の方向を模索しつつあります。ここしばらくは印刷媒体と電子メディア等の非印刷媒体の併用の時代が続くのですが、後者を利用しますと、新しいワンダーランドが開かれる可能性があります。いくつか課題を残していますが、図書館に大いに期待したいと思います。

統計で見る10年間の図書館事情

【1】蔵書は10年前の1.38倍

図書館増改築から4年半、新館部分の利用を開始してこの8月で5年を迎えた。一般に図書館建築は多くの利用者に、多くの利用機会を与えることを念頭に入れるべしとの、各図書館関係者の反省の弁を絶えず聞いてきた。

本学図書館もそのような考えで作られたものでさらに蔵書数の増加に伴う書架の狭隘さを解消することも大きな目標であった。図書は年間平均2万冊ずつ増加し、すでに1989(平成元)年の時点で旧図書館70万冊の収蔵能力にも不安が出始め、本年3月末において10年前の1.38倍の蔵書数となった(表①)。

本年夏季休暇中に、新館6、7階の書庫増設工事(収蔵能力39万冊)を終え、今秋から図書の体系的移動を開始する。今後は、開架閲覧室に配架している図書の見直しを行い、新刊書、教授の推薦書・指定書、参考図書などの充実、また学術雑誌一部の開架への移転、不要図書・古書の処分を推進すべきであると考えている。これらの作業は一朝一夕の実現はなかなか難しく、時間がかかることは不本意であるが、了解をいただきたい。

(表①) 図書・新聞雑誌蔵書数(過去10年間)

	図 書 (冊)			新聞雑誌 (種)		
	和 書	洋 書	計	和	洋	計
1987 (昭和62)	302,062	187,971	490,033	3,221	1,625	4,846
1988 (昭和63)	316,716	196,895	513,611	3,321	1,641	4,962
1989 (平成元)	328,460	204,254	532,714	3,408	1,616	5,224
1990 (平成2)	338,875	213,761	552,636	3,517	1,823	5,340
1991 (平成3)	349,774	221,946	571,720	3,579	1,826	5,405
1992 (平成4)	362,709	231,938	594,647	3,682	1,913	5,595
1993 (平成5)	375,024	239,882	614,906	3,798	1,892	5,690
1994 (平成6)	386,302	247,796	634,098	3,889	1,921	5,810
1995 (平成7)	398,261	255,662	653,923	4,049	1,968	6,017
1996 (平成8)	410,483	265,269	675,752	4,207	2,013	6,220

* 神学部分館を除く

【2】新図書館完成後、図書貸出が増加傾向

図書の貸出状況は蔵書数に比例するとは必ずしもいえない。使いやすい図書館全体の効果的な利用の結果ということができよう。また1994年度からそれまでの貸出条件を緩和・拡大して5冊15日間(学部学生)としたことも増加傾向に拍車をかけている要因であると思われる(表②)。

現在のところ貸出条件をより拡大する計画はないが、今後は利用者の声をさらに聞いて考えたい。

(表②) 図 書 資 料 貸 出 数 (過去10年間)

	学 生	教 員	特別利用他	計
1987 (昭和62)	36,787	5,407	1,515	43,709
1988 (昭和63)	35,577	4,723	984	41,284
1989 (平成元)	32,117	5,846	737	38,700
1990 (平成2)	27,905	7,435	771	36,111
1991 (平成3)	32,790	3,572	984	37,326
1992 (平成4)	42,300	4,700	2,183	49,183
1993 (平成5)	42,429	6,304	2,510	51,243
1994 (平成6)	57,275	5,036	2,278	64,589
1995 (平成7)	60,138	5,287	2,391	67,816
1996 (平成8)	54,707	4,620	1,845	61,172

(1)単位:冊 (2)神学部分館を除く

(3)貸出条件(通常):学部学生5冊まで、大学院生20冊まで

【3】複写の異常な増加

図書館では図書館資料を研究・教育用に限って一部に限り複写を認められている。しかしながら、現実には講義ノート、楽譜やその他の私物を複写する機会が増えている。情報化社会の側面であり、ある意味ではやむを得ないことである。ただし、図書館資料の複写については今後とも著作権問題を十分認識していただきたい。

本学の複写の増加はやはり新館増築に伴い複写機を増設した頃から顕著になっている(表③)。1996年度に1枚20円から10円に価格改定をし、さらに1997年度にさらに複写機1台を増設したことで、これからも利用の増加があるものと思う。

(表③) 文 献 複 写 の 状 況 (過去10年間)

	学 生	対外 受付	対外 依頼	備 考
1987 (昭和62)	96,142	531	411	複写機1台。コイン式
1988 (昭和63)	95,017	529	385	
1989 (平成元)	60,558	593	368	
1990 (平成2)	83,440	704	401	複写機2台
1991 (平成3)	87,770	782	314	
1992 (平成4)	145,741	694	358	新館。複写機3台。カード
1993 (平成5)	189,002	772	351	
1994 (平成6)	195,366	750	392	
1995 (平成7)	(200,000)	538	405	
1996 (平成8)	207,632	460	588	

(1)単位=学生:枚、対外受付・対外依頼:件

(2)神学部分館、教員の研究用複写を除く

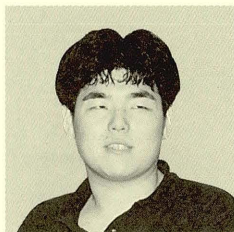
(3)()は推定

(図書館事務次長)

学生から見た図書館 (座談会)

司 会：長 岡 武 史 (情報サービス課司書)
 陪 席：古 庄 敬 文 (情報サービス課係長)
 出席者：西 山 恵 子 (文学部・外国語学科フランス語専攻・4年)
 富 田 文 代 (文学部・国際文化学科・3年)
 津 山 哲 成 (商学部・経営学科・3年)
 久保浦 瞳 (経済学部・経済学科・2年)
 野 田 千 晴 (経済学部・経済学科・2年)
 梶 原 桂 子 (文学部・児童教育学科・1年)
 多 田 創 (法学部・国際関係法学科・1年) (敬称略、順不同)

利用者の実状調査をグループ インタビュー形式で実施いたしました。参加者はやはり図書館を熱心に利用される方がご意見を持たれるであろうと推察し、館内で直接出席のお願いをいたしました。このとき、自由に発言をいただく条件もお伝えしました。今後の図書館運営に生かしていきたいと思います。



(津山さん)

司 会：皆さんは、図書館をどのような目的に利用されていますか。
 津 山：簿記の勉強には、計算機を使いますが、計算機の音が出るので、主に、3階のワープロタイプ室を使っています。

久保浦：絵が好きなので、4階の芸術関係の本をよく利用しています。

西 山：私は、1階のAVコーナーでビデオを見ます。

多 田：利用者教育を受けて、国際機関資料室があることを知りましたので、時々利用しています。

司 会：積極的に利用されているのはよくわかりますが、困ったことはありませんか。

津 山：ワープロ室は、目的外の人が多く利用しているので、席があかず迷惑します。特に、試験中は、それが激しいです。

司 会：そうですね。では、試験中の図書館の環境はどうですか。

富 田：ノートの交換者が増え、荷物だけが机においてあって、座席が使えない。また、友達の間での雑談が増え、騒々しくなります。

多 田：私も、そう思います。

司 会：そのように騒々しい私語は、学生の間で、お互いに注意をすることはありますか。

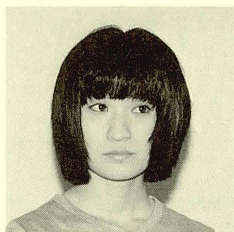
津 山：時々、「静かにして下さい！」という学生がいるのでほっとしますが、やはり学生同志の注意は、しにくいものがあります。

職員の巡回をしていただいた方が、いいのではないのでしょうか。

野 田：本当は、大学生だから自分自身で気をつけるべきだと思う。

(注)

試験期間中は、職員が日に3～4回巡回を行い、座席確保や、私語について指導を実施しており、効果が認められる。



(久保浦さん)

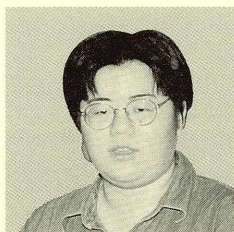
司 会：図書館で満足していることや不備なところ等ありませんか。

富 田：高校では、利用した図書は元の位置へ自分でもどきなければなりませんが、大学では、そういうことはせずに、返却ラックへのせるだけでいいので、感動しました。

司 会：図書の区分をあらわすサインは、分かりやすいですか。
 項目プレートがずれていたり、内容が違っているようなことで困ったことはありませんか。

富 田：書架の図書が、次の書架へ移るとき請求番号の流れがわかりにくいです。

西 山：特に、4階の洋書は、作者別なのか、ジャンル別なのかわからない。



(富田さん)

(注)

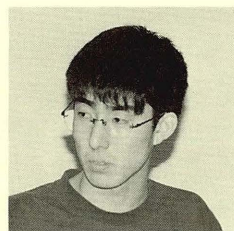
洋書も和書も日本十進分類法にしたがって請求番号が与えられていますので基本的には同じ番号です。

洋書は文学関係が多いので、ジャンル別の作者別になっています。ある作者の作品とその作者についての研究書などが多数出版されているもの、ゲーテを例にとると次のようになります。

941 (ドイツ文学詩)	943 (ドイツ文学小説)	940 (ドイツ文学)
G56 (ゲーテの著者記号)	G56 (ゲーテの著者記号)	28G56 (ゲーテについての研究書)
1...20 (受入順番号)	1...20 (受入順番号)	1...20 (受入順番号)

サルトルの例	サムエルソンの例
135 (フランスの哲学)	331 (経済学)
5Sa696 (20世紀サルトルの著者記号)	74Sa59 (ケンブリッジ学派のサムエルソンの著者記号)
1...20 (受入順番号)	1...20 (受入順番号)

なお著者記号は日本著者記号表によります。



(多田さん)

司 会：端末機の操作は、どうですか。

多 田：操作の仕方が、難しいです。

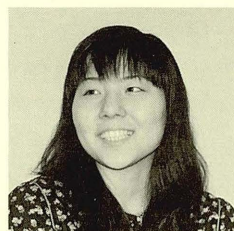
梶 原：利用したいときに、止まっていたり、調整中になっていることが多い。

津 山：大きな番号のところまではいけるけど、それからが請求番号の順番がわからない。

久保浦：清掃も行き届き、空調も快適なので満足しています。

野 田：辞書の貸し出しやビデオの貸し出しが出来ませんか。ビデオ貸出期間は、短くてもいいのですが。また、CNN放送が、観れることは、うれしいです。

津 山：新しい本の配列が、遅いです。書店の店頭に並んでいるのに、図書館には、まだないということがあります。



(野田さん)

(注)

図書館の図書が書架に並ぶまでには、まず「選書」のあと、所蔵調査 → 発注 → 納品 → 受入 (登録) → 分類 (請求番号) → システム入力 → 装備 (ラベル等) の過程を経て、いよいよ配架されます。このように多くの過程と時間を要しますが、図書館ではできるだけ早く配架できるように努めています。

西 山：外国の雑誌が、多く並んでいるので、うれしいです。この他に雑誌がまだあるということは、知りませんでした。

司 会：資料が古いのではないかと思われるようなことはありますか。

津 山：産業関係とりわけ半導体のところは資料が古いと思います。

梶 原：5年以内10年以内の範囲でレポートを作成しようとした時、古い本ばかりで利用しにくいです。

西 山：文学作品で古い本があって、新しくはいらないかなと思う。

津 山：施設面では、各階に洗面所や喫煙室があって便利です。

梶 原：館内は、私語が禁じられているので、普通に話が出来るような談話室がほしい。

多 田：談話室の中に、私は、コーヒーが好きなのでコーヒーが飲めるような自動販売機を設置して欲しい。

司 会：それでは、情報を探し出す時は、まずどこから探しますか。

津 山：まず、図書がないかどうかを調べます。

司 会：本学にない場合は、他大学の図書館を使用したり、文献のコピーを取り寄せたりするレファレンスサービスというものがありますのでみなさん利用してください。

富 田：レファレンスということばの意味がよくわからないので、「相談受付」としていただいた方が、相談しやすくなります。

司 会：この会のまとめとして、皆さんのご意見は、おおむね満足できる図書館ということになりますが、この他に、不便なことなど感じることはありませんか、図書館の私たちへどうぞ聞かせてください。本日は、ありがとうございました。



(西山さん)



(梶原さん)

「利用者教育を終わって」

平成5年に図書館が増築され全面オープンして以来、年々利用者は増加してきました。その原因としては、①図書館内が明るくなったこと、②以前のように荷物を預けることなく入館出来るようになったこと、③空調が整備されたことなどがあげられると思います。ただ、利用者は確かに増えていますが、図書館の機能をしっかりと把握している人はわずかで、何となく自分の探しているものは見つけることができるが、求めているものが見つからない場合は、あきらめている人が大半のようです。

図書館としては、そのため「図書館ガイドブック」、「端末の操作マニュアル」等の作成、また、4月に大学全体のオリエンテーション時の図書館案内を行ってきました。さらに、依頼があれば、図書館の機能や端末の説明を行う図書館ツアーなども単発的ではありましたが、実施していました。このような状況の中で、もっとうまく図書館を利用して欲しいということから、少人数向けで、より詳しい説明ができる方法はないものかと考えた結果、従来のランキン・チャペルで実施していた正味10分ぐらいの図書館案内に替えて、今年度からクラス単位でできる図書館利用者教育を考えました。

先ほども申したとおり、単発の図書館ツアーは行っていたものの、組織的に全学部を対象にしたいわゆる「図書館利用者教育」は始めてであり、どのように進めていくか検討した結果、各学部で都合のいい時間を設定してもらい、その時間に図書館員が図書館の基本的な説明をすることになりました。

期間は4月初旬から6月初旬までの約2ヶ月間で、その内容は次のようなものでした。

1. 図書館ガイドブックによる説明

図書館の開館時間、入退館方法、図書館でのマナー、分類番号の成り立ち、請求番号の意味、図書館内の資料のコピー方法等

2. 図書館各フロアーの案内

各学部で主に利用するフロア、貸出・返却カ

情報サービス課係長 古 庄 敬 文

ウンター、指定図書コーナー、ベストセラーズコーナー、閉架資料室

3. 端末による検索方法の説明

簡単な検索例を配付し、各人で実際に端末に触れてもらう。書名、著者名からの検索。一部の学科では情報処理センターを利用し、検索を実施。

今回は、何しろはじめての試みということで、4月初旬には、担当した図書館員もこれまであまり利用者に対して組織的に図書館の説明を行っていなかったせいか、説明することが十分伝わらなかった面もあるかもしれません。しかしながら、今までのような数百人を相手にした説明と違って、多くても40人ぐらいだったため、図書館員が相手の反応を確かめながら説明できたという点で、少人数で図書館の説明を行ったことは成功であったと思われます。

利用者教育を行った結果、その後図書館に来館してもっと端末を利用した検索方法を知りたいという学生がいたり、レポート提出のために、どうして資料を探したらいいのか尋ねに来たりと、今までの大人数を相手にしての図書館利用案内よりはさすがにその後の反応が多いなと感じています。

今後は図書館として、この1年時の利用者教育のフォローアップの教育として、例えば、卒論など書く場合の参考資料を使用してのより高度な検索技術の紹介、定期的な図書館ツアーの設定、図書館利用ビデオの放映、相談カウンターの充実等考えていかねばならないと思っています。また、利用者教育に関して先生方との連繫をもっと密にしたり、分りやすい案内板の設置等も考えていくつもりです。

来年度以降、この利用者教育が利用者にとって本当に図書館を使いこなすための機会となるよう今後も図書館として努力を続けていくつもりですので、意見などありましたら遠慮なく図書館まで申し出てください。

新着図書・視聴覚資料紹介

図 書

<書名／編著者／出版社／請求記号>

文科系のコンピュータ概論／有澤 誠／岩波書店
／007.6.164

M・エンデが読んだ本／Ende, Michael／
岩波書店／019.0.64

絵画で読む聖書／中丸 明／新潮社／
193.0.48

聖書のドラマに登場する人物／高柳俊一
／リトン／193.0.47

日本の地名／谷川健一／岩波書店／
092.291.5

日本政治の課題／山口二郎／岩波書店／
092.312.40

福岡県の情報開示（平成7年度）／－／県民情報
センター／316.1.12-8

日本の行政改革－制度改革の政治と行政／
毛 桂榮／青木書店／317.2.60

行政法学／兼子 仁／岩波書店／
323.9.212

早わかり経済学入門／西村和雄／東洋経済新報社
／331.N84.7

新資本主義論－視角転換の経済学／馬場宏二／
名古屋大学出版会／332.06.52

データで読む日本の経済構造／経済企画庁／
東洋経済新報社／332.107.197

アジアの経済発展と流通機構／細川隆雄／
晃洋書房／332.2.132

中国の経済発展と市場化／加藤弘之／
名古屋大学出版会／332.22.376

企業行動の国際比較／柴川林也／中央経済社
／335.2.15

日米EUの独禁法と競争政策／滝川敏明／
青林書院／335.57.46

現代の公益事業／石井晴夫／N T T出版／
335.8.14

バーチャル企業連合／伊藤友八郎／P H P 研究所
／336.0.80

能力主義と企業社会／熊沢 誠／岩波書店／
092.336.2

情報開示と金融・資本市場の経済分析／

康 聖一／文真堂／338.1.70

銀行の融資者責任／日本弁護士(連)／東洋経済新
報社／338.5.78

欧州通貨統合の政治経済学／島崎久彌／日本経済
評論社／338.97.107

世界銀行は地球を救えるか／George, Susan／
朝日新聞社／338.98.14

保険の経済分析／上山道生／中央経済社／
339.35.2

公共経済の諸要素／C. ベッカリーア／九州大学
出版会／341.0.19

ニッポン不思議発見／日本文化研究所／講談社イ
ンターナショナル／361.5.131

ワーキング・ウーマンのためのQ & A 100／
中島通子／亜紀書房／366.38.62

現代世界と労働運動／下山房雄／御茶の水書房／
366.6.172A

アメリカの会計原則／青山監査法人／東洋経済新
報社／366.92.55-6

ジェンダーがやってきた／船橋邦子／木犀社／
367.21.126

動き始めた教育改革／寺脇 研／主婦の友社／
372.1.226

専門教育と情報教育の融合化に向けて／白川良典
／時潮社／377.15.24

大学再生への挑戦－アメリカの大学改革論／
Solomon, R.／玉川大学出版部／377.253.21
「複雑系」とは何か／吉永良正／講談社
／09K.404.1

発展途上国の環境意識／西平重喜／アジア経済研
究所／519.08.5-8

情報通信インフラ整備の経済効果／OECD／
日本評論社／547.0.52

日本のホームページ4000／アスキー／
アスキー／547.48.160

コンピュータ半世紀／水越 伸／ジャストシステ
ム／548.2.54

国際ビジネス・経営入門／井出喜胤他／中央経済
社／678.1.71

美術館へ行こう－浮世絵に遊ぶ／安村敏信／新潮
社／721.8.45

英語音声学・音韻論／Roach, Peter／大修館書
店／831.0.6

奥の細道—芭蕉自筆／松尾芭蕉／岩波書店／
911.32.31
みすゞコスモス／矢崎節夫／JULIA出版局／
911.56.170
源氏物語—折々のころ／中井和子／大修館書店
／913.36.98
読書人の風紋／谷沢永一／潮出版社／
914.6Ta88.3

LD・ビデオ・CD-ROM

クラシック・フィルム・コレクション (LD)

「緋文字」N. ホーソン原作／1926・B & W・
字幕・86分／778.LV.HIM
「モロッコ」／1931・B & W・字幕・90分／
778.LV.MOR
「ガス燈」／1944・B & W・字幕・114分／
778.LV.GAS
「裁きは終りぬ」／1950・B & W・字幕・
100分／778.LV.SAB
「白夜」ドストエフスキー原作／1957・B &

W・字幕・107分／778.LV.BYA
「審判」カフカ原作／1963・B & W・字幕・
118分／778.LV.SHI
「哀しみの終わるとき」／1971・カラー・
字幕・100分／778.LV.KAN
「世界大紀行」(全30巻)／カラー・50～77分／
キャピタル ABC Int.／290.VT.SEK
「京都の魅力・美のすべて」(全25巻)／カラー・
30～35分／NHK (ソ)／291.VT.KYO
速水優「国際金融と日本経済」(全8巻)／カラー
・50～120分／—／291.VT.KOK
NHK特集名作100選 (うち43巻)／カラー・45～
50分／NHK (ソ)／778.VT.NHK
「奥飛騨白川郷」「寅さんは生きている」
「輸入食糧ゼロの日」「ドラマ教員室」
「地球汚染」「江夏の21球」ほか
マルチメディア植物図鑑／鈴木康夫／アスキー／
470.ROM.MAR
(上記は、1997(平成9)年4月～8月新着図書
＜和書＞・視聴覚資料の一部です。)

お知らせ

- ◎第1グループ学習室が3階より2階へ移動しました。収容人員等の変更はありません。
- ◎卒業後も図書館の利用ができます。詳しくは別の「卒業後の利用方法」を参照してください。
- ◎返却期日を過ぎた図書を持っていますか。次の利用者が多く待機していますので、返却をお急ぎください。
- ◎春季休暇の特別貸出は1998(平成10)年1月29日(木)より4月4日(土)まで行います。

《人事異動》

◎補 職

(1997.7.1～1999.6.30)

	新任者	前任者
図書館長	岩間 徹 (法学部教授)	川上宏二郎 (法学部教授)

《図書館委員会》

4月11日

- ①1996(平成8)年度決算について
- ②1997(平成9)年度補正予算申請について
4月28日
- ①1997(平成9)年度共通研究図書費、一般図書費および新聞雑誌費の配分について
- ②1997(平成9)年度私大助成申請および高額図書購入申し込みについて

編集後記

グループインタビューに出席いただいた学生の方々が難うございました。特定の人に偏らないよう配慮しましたが、お返事をなかなかいただけず難しいものを感じました。(S.M)

「旧書厭わず百回の読を、
熟読深思せば子自ら知らん」(蘇軾)
灯火親しむ秋です。図書館を大いに利用してください。(Y.M)